

往復書簡(後編)

北海道で牧場経営等をされている延興雄一郎さん(株式会社ノベルズ 代表取締役)。前編でもご紹介いただいたバイオガスプラント運営等の地域貢献プロジェクトについてお話しいただきました。

拝啓 高木 勇樹様

年の瀬も間近になって参りましたが、ご健勝のこととお喜び申し上げます。

北海道十勝は、例年よりも降雪が早く、牧場も、周辺の畑も、一面の銀世界です。寒さに負けない牛たちも、生後間もない時は、飼養管理には特に特に気を配らなくてははいけません。

先月の往復書簡では、私たちノベルズグループが取り組む地域貢献のプロジェクトに、ご意見を賜り、大変有難く存じます。地域に電力と有機肥料を供給する十勝管内清水町のバイオガスプラントは、来春の操業開始に向けて建設が進んでおりますが、あらためて耕畜連携のあり方をコストやリスクの面から検証していかねければ、と気を引き締めております。

ノベルズグループは、ちょうど10年前に、私の生家が営む子牛の育成事業から独立する形で、肥育事業をスタートさせたのが始まりです。交雑種の雌牛を32カ月以上の長期飼養することで、肉に旨味を乗せて付加価値を高めると同時に、この期間に黒毛和種の子牛を生ませる事業モデルを構想し、畜産業に関わる多くの方々のご指導を受けて、ようやく事業を軌道に乗せることができました。

現在、ノベルズグループが推進している地域貢献のプロジェクトの核となるバイオガスプラントは、十勝・根釧地域における長年の試行錯誤によって培われた技術がベースになっています。自然エネルギーの利用拡大を図る政策的な後押しもいただき、事業化に踏み切った経緯もございませぬ。

畜産関係の方々、そして地域の方々のお気持ち、ご支援を受けて、初めて私たちの今日があります。感謝の言葉もございませぬ。ただ一方で、十勝の基幹産業である農業は、就業人口の高齢化や担い手不足が懸案であり、その将来が見通せない厳しい現状にあります。「ならば、自分たちにも何かできることはないか」との思いが、私たちの耕畜連携の原点です。

地域の農家の方々に目に見える形でメリットを享受していただければ、プロジェクトの成功はあります。例えば、今後、バイオガスプラントが稼働すれば、副産物として、消化液と呼ばれる有機肥料が得られますが、雑草の種子を高温で死滅させる処理を施すことから、従来の堆肥が抱える雑草の問題が克服できるとの期待があります。また、液状で保存や輸送も比較的容易で、散布用の農機の調達や

作業はノベルズグループが受け持つ計画です。消化液を活用する輪作とはどのようなものか、畑作農家の方々の共同研究も必要と考えています。その結果として、飼料向けデントコーンを栽培 提供いただければ、私たちの牧場経営に大きなプラスになります。

もつともプロジェクトは、緒に就いたばかりです。農業の経営形態が多様である以上、耕畜連携の形も、ケース・バイ・ケースで、柔軟でなければなりません。たとえ想定外の課題に直面したとしても、社員一同、力を合わせて乗り越えていく所存でございますが、地域の方々、農業に関わるの方々のご支援があつて、初めて耕畜連携があると考えております。

今後とも、ご指導、ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。日毎に寒さがつづり、体調を崩しやすい時期でもございます。どうぞ、くれぐれもご自愛ください。

平成28年12月吉日

敬具

延興雄一郎(えんよ ゆういちろう)

1978年 北海道土幌町生まれ  
2006年 株式会社ノベルズを創業

株式会社ノベルズ 代表取締役。高校を卒業後、米国の肉牛牧場で1年間の研修を経験。ノベルズグループの主要8社は、肉用牛の素牛、肥育牛、生乳の生産牧場の経営のほか、交雑種雌牛の自社ブランド「十勝ハーブ牛」を扱う食品事業を展開。

